

市政トピックス

市民が集うにぎわいの空間へ —道路空間を活用した社会実験

市では、本庁舎の建て替えに向けて、市民の皆さんがより活用しやすい空間となるよう、新本庁舎敷地内広場と勾当台公園市民広場等との一体的利活用の検討を行っています。勾当台公園市民広場等と連携し、さまざまなイベントの舞台とすることで、にぎわいの創出を目指します。

11月3日には、一体的利活用の課題や周辺交通への影響を調査するため、社会実験が実施されました。勾当台公園での青葉区民まつり開催に併せ、本庁舎の敷地を開



▲市道表小路線の休憩スペースには、芝生広場やベンチを設置



▶地面でお絵描きコーナー。子どもたちがチョークで自由に描いた色とりどりの絵が、本庁舎敷地内広場いっぱい広がりました

市政トピックス

G7仙台科学技術大臣会合推進協力委員会が設立

令和5年5月12日から14日にかけて秋保地区で開催される、G7仙台科学技術大臣会合に向けて、「2023 G7仙台科学技術大臣会合推進協力委員会」が設立されました。委員会は市や東北大学、観光関係事業者等17人で構成され、会合の開催支援や、仙台・東北の魅力の発信などに官民連携で取り組んでいきます。

10月28日には、設立総会および第1回委員会を開催。会合の実施概要のほか、次世代放射光施設「ナノテラス」や市の科学技術を活用したまちづくりの発信、ボランティア育成などによるおもてなし環境の整備など、委員会の事業の方向性について確認しました。今後は、これらのさまざまな事業を通じ歓迎の機運を醸成しながら、開催への準備を進めていきます。

市政トピックス

空から命を守る消防航空隊—小学生がヘリコプター等を見学

11月3日、消防航空隊小学生向け見学体験イベント「小学生が特殊部隊へ潜入！災害時に活躍するヘリコプター部隊を見てみよう」



▲消防航空隊の機体「せんだい」の見学の様子



▶つり上げ救助訓練体験

市政トピックス

放したほか、歩行者が自由に行走できるように、本庁舎南側の市道表小路線と、勾当台公園市民広場に隣接するつなぎ横丁において車両の通行止めを行いました。

当日は道路空間に椅子やテーブルなどを設置したほか、ポッチャやサッカーボウリングの体験など、家族で楽しめるさまざまなイベントも用意されました。フリースロー体験コーナーで友達とシュートの数を競い合ったり遊ぶ子どもたちや、青葉区民まつりのステージを楽しんだ後に芝生広場でゆったりくつろぐ家族連れなど、社会実験と青葉区民まつり両方の企画を楽しむ多くの人でにぎわいました。

今後も、当日行ったアンケートの結果や交通規制の影響などを検証し、にぎわいを生み出す空間づくりに向け検討を重ねていきます。

市政トピックス

日本伝統文化の魅力を身近に

11月5日、6日に、子どもたちが日本の伝統文化に親しむ機会をつくり、次世代への継承・発展に

が、消防航空センターで開催されました。これは、消防航空隊の活動内容について理解を深めてもらうとともに、防災意識の向上を図るため行われたものです。

当日は32人の小学生が参加し、ビル火災発生時の消火や山岳地域での救助など、消防航空隊の災害時の活動について学んだほか、消防航空隊や陸上自衛隊で使用されているヘリコプター、宮城県ドクターヘリの3機を見学。子どもたちはそれぞれの機体を前に目を輝かせながら、活動内容や救助資機材などの説明を熱心に聞いていました。また、訓練施設では、小学生を要救助者に見立てた、つり上げ救助訓練の体験も実施。子どもたちからは、「命を守るヘリコプターの仕事はカッコイイと思う」といった感想が聞かれました。そのほか火災実験や消火活動体験も行われ、航空隊の災害現場での活躍や火災予防の大切さを体感していました。

市政トピックス

優れた技能と長年の功績をたたえて

つなげることを目的に、「城下町せんだい日本伝統文化体験フェア in 青葉山」が開催されました。小・中学生とその家族延べ約900人が、会場となった東北大学百年記念会館川内萩ホールに集まりました。

5日は、三味線や百人一首など10分野の伝統文化が、舞台での実演により紹介されました。日本舞踊では歌舞伎舞踊「藤娘」が披露され、鑑賞者は、着物のなびきや細やかな所作など踊りの美しさに見入っていました。

6日には、実際に伝統文化を体験できるワークショップを実施。茶道の体験では、お茶のたて方や飲み方だけでなく、相手の思いやおもてなしの文化であることなども紹介されました。子どもたちも真剣な表情で一つ一つの動作に丁寧に取り組み、自分でたてたお茶を満足そうに味わっていました。伝統文化に触れる体験を通して、その魅力や奥深さを実感できる充実した2日間となりました。



▲華道の体験では、花材にグラジオラスと中菊を使った生け花に挑戦しました

市長コラム

春夏秋冬

仙台市長 郡 和子

世界初！ドローンで津波避難呼び掛け

今や私たちの生活に身近な存在となった「ドローン」。英語で「オスの蜂」の意味で、飛行時のブーンというプロペラ音が蜂の羽音に似ていることから、その名が付いたとも言われています。

カメラを搭載した空撮用ドローンは私たちに新たな視野の映像を見せるだけでなく、物流や農業などの分野でも活用が広がっています。トイドローンは子どもたちにも大人気です。国においては、レベル4飛行と称される、市街地等での補助者を配置しないドローンの運航を、確実・安全に行うために法改正が進められ、12月5日には国家資格の「無人航空機操縦士」が新設されることになっています。

ドローンの利活用は今後も飛躍的に進むことでしょう。ところで、仙台市がドローンを使った世界で初めての事業をスタートさせたことをご存じでしょうか？大津波警報等の発令と同時に、スピーカーとカメラを搭載したドローンが、南蒲生浄化センター屋上の格納庫から

市では、長年にわたり優れた技能で市民生活を支え、まちづくりの基礎を築いてきた技能職の方々を技能功労者として表彰しています。11月7日に行われた表彰式では、23職種39人の方々に表彰しました。表彰された方は次のとおりです（順不同・敬称略）。

- 〔石工〕 早坂政幸〔印刷製本職〕 高橋貞二、熊谷知彦〔印章彫刻師〕 千葉智洋〔屋外広告美術職〕 草賀大〔ガラス職〕 小野寺誠〔左官職〕 千葉重之〔鍼灸マツザ―ジ師〕 堀田三千春〔造園職〕 鈴木勝喜、古積昇〔大工職〕 本間寛、齋藤浩、奥山功、庄司千明〔畳職〕 佐々木正志〔建具職〕 高木純一〔調理師〕 阿部正幸、阿部貴英〔電気工事職〕 大嶋正、遠藤紀夫、門脇秋夫〔塗装職〕 本間史〔とび職〕 藤倉雅、峯岸秀知、佐藤大次〔配管職〕 鈴木正、横山斉〔板金職〕 本田隆〔表具職〕 千葉克広〔美容師〕 深野早苗、佐久間和宏〔ボイラー整備士〕 阿部洋一〔理容師〕 佐々木司、児玉千代美、菅井美代子〔鉄筋工〕 加藤大志朗、高橋昭三〔解体工〕 岡田昭、伊藤英俊

自動で飛び立ち、あらかじめ定めたルートを飛行して周辺に避難広報を行い、併せて、沿岸部の状況をカメラで映し災害本部に電送。専用の通信網を用いて、人の手を介さずこれらを「全て自動」で行うという世界初の取り組みです。

東日本大震災から11年9カ月が経過します。あの折、津波からの避難を呼び掛けていた方々の尊い命が失われました。痛恨の思いで、二度と犠牲を出さない避難広報の手段を多重化・補完するため、最先端技術を使った実験を何度も積み重ねて、このたび、実現したものです。

集団移転していただいた沿岸部の皆さんの故郷は、新たな表情で憩いにぎわう場となりました。そこに集う方々の命を守るために、このドローンが非常時に避難を呼び掛けます。もし、その知らせを空から受け取ったらすぐ、命を守る行動をとっていただくようお願いいたします。皆さんを助けるために飛ぶ「オスの蜂」ならぬ、世界に誇る「働き蜂」の呼び掛けですから。

● 次回の掲載は3月号を予定しています